

事務事業評価表

1. 基本事項

作成日 令和05年06月14日(水)

事務事業		消防活動事務		担当課	深谷消防課	担当係	深谷消防署	管理番号	54411
総合計画	大項目	4	安心とやすらぎを感じられるまち		事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務			
	中項目	1	備えができ安全・安心なまちづくり		根拠法令 個別計画等	・消防法 ・消防組織法 ・消防力の整備指針 ・深谷市消防本部警防規程			
	小項目	2	消防・救急体制の充実						
	主要プロジェクト								
事業概要		複雑多様化する各種災害に対して、消防職員の訓練、研修等を実施し技術、知識の向上を図る。 各種資器材の点検、整備により、消防活動に必要な資器材を常時使用可能な態勢に整え迅速、的確な消防活動を遂行する。							
目的 ※何のために		住民の生命、身体及び財産を各種災害から保護するとともに、被害の軽減を図る。							
対象 ※誰・何を対象に		住民の生命、身体及び財産。							
手段 ※どのように		複雑多様化する災害に対応するため、訓練、研修等を実施するとともに、資器材の点検、整備を行い災害等による被害の軽減を図る。							
成果 ※何を求めるか		業務の総合的な強化、充実を図り、迅速に各種災害活動を行い損害を最小限に留め、住民の生命、身体及び財産を守る。							
執行体制		<input checked="" type="checkbox"/> 職員 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 市民ボランティア <input type="checkbox"/> NPO等 <input type="checkbox"/> その他()							
事務事業を構成する 予算事業		区分	款	項	目	細事業名		前年度決算額(円)	
本事業の 主な業務		・水火災の災害対応業務				・事業所等の消防訓練指導			
		・消防訓練の立案、調整、実施に関する業務				・各種報告書、統計及び即報の作成事務			
		・警防調査及び水利の点検に関する業務				・			
		・消防資器材の維持管理業務				・			
		・火災原因及び損害の調査				・			
		・り災証明発行事務				・			

2. 事業費(投入コスト)

単位: 円

区分		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
年度別計画							
事業費	予算(現額)	0	0	0	0		
	決算額	0	0	0	0		
	財源内訳	国支出金	0	0	0		
		県支出金	0	0	0		
		地方債	0	0	0		
		他特定財源	0	0	0		
	一般財源	0	0	0	0		
人件費	従事職員数(人)	0.10	0.10	0.25	0.25		
	人件費相当試算※	776,192	786,956	2,169,994	2,169,994		
総事業費試算		776,192	786,956	2,169,994	2,169,994		

※ 人件費相当額試算は、従事職員数に平均人件費を用いて試算したものです。

3. 評価指標

区分	指標名		単位	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度
	目標値	実績値							
	目標値の算定根拠/実績値の出所								
	実績値の算出式								
活動指標 1	火災出場件数（暦年）	目標値	件						
		実績値		25.00					
	目標値の算定根拠/実績値の出所		火災出場件数であり、目標値の設定に値しない。/ 出場件数						
	実績値の算出式								
活動指標 2	訓練・研修回数	目標値	回	44.00					
		実績値		44.00					
	目標値の算定根拠/実績値の出所		年間訓練計画に基づく目標値とする。 / 実施回数						
	実績値の算出式								
活動指標 3	資器材点検実施率	目標値	%	100.00					
		実績値		100.00					
	目標値の算定根拠/実績値の出所		100%の資器材点検を目標とする。 / 実施日/365日×100						
	実績値の算出式								
成果指標 1	資器材常時使用可能率	目標値	%	100.00					
		実績値		100.00					
	目標値の算定根拠/実績値の出所		車載されている全資器材の常時使用可能率。 / 使用可能数/全資器材×100						
	実績値の算出式								
成果指標 2	火災による死傷者数（暦年）	目標値	人						
		実績値		9.00					
	目標値の算定根拠/実績値の出所		火災死傷者数であり、目標値の設定には値しない。 / 火災による年間死傷者数						
	実績値の算出式								
成果指標 3	火災1件当たりの焼損棟数（暦年）	目標値	棟	1.59					
		実績値		1.48					
	目標値の算定根拠/実績値の出所		前年の埼玉県の値とし、より現実的な目標とした。（平成29年数値） / 年間焼損棟数合計/年間建物火災						
	実績値の算出式								

4. 観点別評価

観点別評価は、指標達成の有無の他、その達成率も勘案して総合的に評価します。
目標値の設定がないものについても、進捗状況等を踏まえA～Cの三段階にて評価します。
事業達成度評価は、意図した活動により事業目的に合う成果がでているかを評価します。
（評価基準）（A:達成している B:おおむね達成している C:達成していない）

（1）事業達成度評価

区分	評価の観点	評価	評価理由・指標数値の推移
活動	・活動実績は、見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか。	A	コロナ禍が継続する中、感染対策を完全に訓練及び研修等を実施することができた。また、資器材は日々の点検・整備を実施し災害、訓練時に支障なく活用することができた。
成果	・意図した成果が上がっているか。 ・指標未達成の場合は、その原因を分析できているか。	A	保有資器材の点検・整備を適切に行い維持管理に努めたことで災害時に有効に活用することができた。
			評価者 消防係長 佐々木勝・小池喬

（2）事業効率性評価

事業効率性評価は、執行体制や手段など効率的に事務事業を執行しているかを評価します。
（評価基準）（A:効率的である B:高める余地あり C:効率的でない）

区分	評価の観点	評価	評価理由
効率性	・ICTの活用や業務改善が充分か。 ※検証必須 ・コスト面など効率的に執行できているか。 ・民間委託や他事業との統合・連携が可能か。	B	災害活動後の事後検証時、現場で撮影した動画を活用し、検証及び課題を検討し次後の災害活動に反映している。 今後、決裁方法を見直しデジタル決裁を効率的に活用しコスト削減を図る。
			評価者 消防係長 佐々木勝・小池喬

5. 前年度改善改革プラン達成状況

令和3年度の評価を受けて 設定した改善・改革案	現在の深谷式消防戦術を継続し、目標値の6分30秒以内を維持するため、放水時間の短縮を行いつつ、今年度は水利点検時に、道路の狭隘箇所を確認したり、道路工事等で届出のあった通行止めなどの場所を把握することで、災害出場時のルートを適切に管理し現場到着までの時間短縮を図る。
達成状況及び その効果	深谷式消防戦術の運用によって、現場活動時に他隊との連携活動が図れ効率的かつ円滑な活動ができた。また、災害出場時、適切なルートの選定により「出場から放水開始まで」の時間が目標値の6分30秒を達成し、過去3年平均（令和元年～令和3年）において6分15秒と達成することができた。

6. 所属長評価（今後の方向性）

事務事業	消防活動事務	担当課	深谷消防課	担当係	深谷消防署	管理番号	54411
<div><div><div><input type="checkbox"/> ①拡充, 重点化(コスト投入)</div><div><input checked="" type="checkbox"/> ②現状のまま継続</div><div><input type="checkbox"/> ③見直して継続</div><div><input type="checkbox"/> ④目的達成による終了</div><div><input type="checkbox"/> ⑤廃止を検討</div></div><div><div><input type="checkbox"/> 委託化等の検討</div><div><input type="checkbox"/> 成果向上のための改善</div><div><input type="checkbox"/> 効率化のための改善</div><div><input type="checkbox"/> 事業規模の縮小</div><div><input type="checkbox"/> 他の事務事業と統合</div></div></div>		評価の内容説明					
		深谷式消防戦術の運用により、「出場から放水開始まで」の時間が目標値である6分30秒が達成され良好である。今後さらに計画的に訓練を継続して、現場活動に反映し、市民が安心・安全に過ごせるように、災害による被害軽減に努めていく。					
上記を実施するための具体的な取組内容は？		評価者	消防課長 鴻野 匡志				

7. 改善改革プラン・今後の課題

令和5年度に実施する 改善・改革案 （事業目的・各指標の達成に必要な改善、業務の効率化を図るための改善）	深谷式消防戦術の目的である、「出場から放水開始まで」の時間の6分30秒以内を継続し、かつ現場活動におけるペア連携活動を維持し継続する。令和4年度同様に管内の道路狭隘箇所等を把握に努め、災害出場時に適切なルートの選定により現場到着を図る。
令和6年度以降に取り組む 改善・改革案・今後の課題 （事業目的・各指標の達成に必要な改善、業務の効率化を図るための改善）	深谷式消防戦術を継続し、目標値の6分30秒以内を維持する。そのため、さらに計画的な訓練を継続し、各隊また各ペア隊の連携強化を図る必要がある。また、緊急車両の事故防止のため、管内の道路狭隘箇所等を把握し、安全かつ迅速に現場到着することが必要である。

8. 評価指標グラフ

